

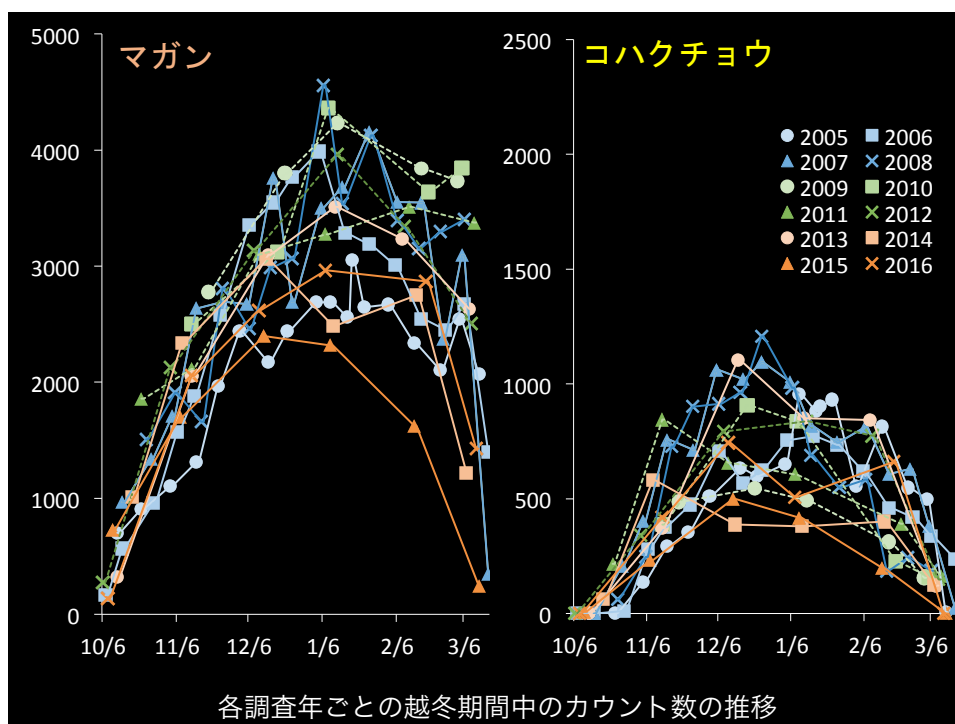
宍道湖に飛来するマガンとコハクチョウの比較

森 茂晃 (ホシザキ野生生物研究所)

宍道湖や中海，その周辺部は，ガン類やハクチョウ類の越冬が見られる地域である．中でも個体数が多く，まとまった群れが見られるのは，マガン，ヒシクイ，コハクチョウの3種であり，昨シーズンの宍道湖とその周辺では，越冬期間中の最も多いカウント数で，マガン約 2,900 羽，ヒシクイ約 230 羽，コハクチョウ約 750 羽を数えている．

毎年，これらの大型の水鳥が集団で越冬している場所は全国的にも限られる．また，この地域の中でも，ねぐらあるいは採食などに利用する場所は，さらに限られた範囲である．当地において，その場所に関する知見やある程度の範囲を示すことができる情報は，観察記録やカウント調査などからも蓄積されてきていると思われる．しかし，それらを長期にわたってモニタリングし，経年あるいは越冬期間中の変化の有無などについて比較検討できるような調査事例はあまりなく，特に採食地に関するまとまった記録は少ないと考えられる．

こうした状況の中，当財団では 2005 年度からマガン，ヒシクイ，コハクチョウについて，宍道湖周辺で採食している場所やその選択性に関わると考えられる情報を収集する基礎的な調査を行ってきた．この調査で得られている結果については，とりまとめを進めている段階で，現時点では十分な分析はできていないが，今回はその結果の一部を示しながら，特にマガンとコハクチョウを比較して宍道湖周辺におけるカウント数の推移や採食場所の移り変わりなどについて紹介する．



各調査年ごとの越冬期間中のカウント数の推移